

<京都の夏を涼しく過ごす工夫・知恵>

京都では、建物も人と一緒に夏になると衣替えをします。障子や襖なども、「建具替え」といって、夏の始めに風の通る建具に交換します。昔の京都の町家には必ず縁側や庭があり、部屋の中とは建具で間仕切りしていました。例えば障子は簀戸（すど）に替えることで、風通しをよくするとともに見た目の涼しさも演出されていました。



そのほかにも、京都は夏が非常に暑いので、少しでも涼しく過ごすために、いろいろな工夫がされています。例えば、畳の上に敷物（籐むしろ）を敷いたり、座敷簾（すだれ）をかけたり、京町家には昔の人の夏を過ごすための様々な工夫があります。音が涼しげな風鈴や、向こう側が見えて風でなびくのれんなどもそのひとつ。昔の人が作ってきた面白い仕掛けや工夫、知恵を、現代の家に取りいれてみるのも、ひとつの夏の過ごし方ではないでしょうか。

講師：秦 めぐみ 氏